

# 令和2年度 群馬大学共同教育学部附属特別支援学校

## 公開研究会 実施報告

### 研究テーマ

## 学びを生かし、自分らしく社会とかかわる児童生徒の育成 ～実態把握から学習評価までを見通した各教科の授業づくり～

### 1 公開研究会の概要

昨年度までの研究と、今年度の7月に実施した校内研究授業を受け、「3観点で目標を設定し、子どもの学びを見取ること」「学習を積み重ね、つながりのある単元の指導計画を作成すること」「本校における授業づくりの手順や方法を確立すること」を課題として捉えました。そしてこれらを「学習指導案」や「授業づくりの過程」として具体化することに取り組みました。

公開研究会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実施方法をオンラインに変更し、事前に授業動画や資料等を送付し、当日は、GoogleMeetを活用して、意見交換会や授業研究会、講演会を実施しました。授業は各学部3本ずつ、計9本の動画を配信し、当日は、のべ170名の参加があり、多くの質問や意見をいただき、今後の研究にかかわる協議をすることができました。

講演会は、筑波大学人間系障害科学域、米田宏樹准教授と明星大学教育学部、明官茂常勤教授のお二人の先生に、「『育成を目指す資質・能力』を踏まえた学習評価の在り方」をテーマにご講演をいただきました。

### 2 配信した授業の概要

#### (1) 小学部

##### ①算数科「くらべて はかろう」（測定）

小学部5年生、6年生の児童6名を対象に、身近な物の量の違いに着目して「多い」「少ない」を正しく判断できるように、様々な大きさや形状の容器のかさを比べる学習をしました。「積み木の高さ比べ」や「水集めゲーム」などを行い、高さの違いから、多少を判断できるように学習を進めました。

「積み木の高さ比べ」では、積み木の1番上を比べるとよいことに気づき、「こっちの方が高い」「こっちが低い」など、気付いたことを伝え合う姿が見られました。

「水集めゲーム」では、水槽に集めた水について、着色された水の水面の高さに着目し、比べる姿が見られました。



「積み木の高さ比べ」



水面の高さを比べる様子



「水集めゲーム」

## ②音楽科「きいて まねして うごこう」（音楽あそび・身体表現）

小学部1～3年生の児童8名を対象に、様々な音や音楽に触れることをとおして、感じたままに、自分の思いを表現することをねらいに学習をしました。児童の実態に応じて選んだ曲に合わせて、楽器で音を出したり、道具を使って身体の動きで表したりしました。

単元の序盤は音の強弱を感じるために、大きさの違う太鼓やマラカスを鳴らしたり、パラバルーンで動きの大きさを捉えたりできるようにしました。中盤は、リトミックスカーフや棒付きポンポンを用いて、音楽の強弱に合わせて道具の動かし方や身体の動かし方を変えることを重視して学習しました。後半は、友だちの動きを真似ながら、生き物になりきって身体を動かす学習を行いました。



パラバルーンをはためかす



リトミックスカーフで表現する



動物になりきって表現する

## ③図画工作科「ならべて かさねて くっつけて」（工作・立体）

小学部3～5年生の児童6名を対象に、イメージに合わせて素材を選んで組み合わせたり、できた形に意味づけたりする中で、想像力をはたらかせながら立体的につくることをねらいに学習しました。段ボールを中心素材とし、「あったらいいなこんなおうち」を合い言葉に、様々な「おうち」や「まち」をイメージしてつくっていききました。

単元の序盤は、段ボールを組み合わせたり、中に入ったりするなど素材に触れて楽しみました。中盤は、大きな家をつくることを目指し、段ボールを切ったり組み合わせたりして工作しました。友だち同士で制作の様子を見合ったり、制作途中の「おうち」に一緒に入って遊んだりする鑑賞をとおして、イメージを広げながら、思い思いの「おうち」をつくっていく姿が見られました。またカラーペンやカラーテープで飾る姿も徐々に見られるようになりました。



友だちと遊びながらつくる



高く積んで立体にする



テープを貼って思い思いに飾る

## (2) 中学部

### ①国語科「言葉を選んで表そう」（書くこと）

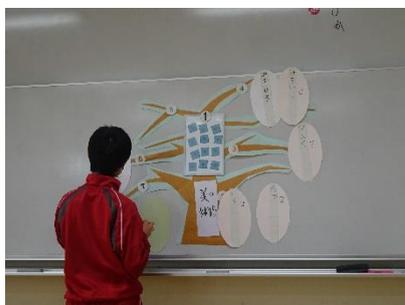
中学部3年生の生徒6名を対象に、じっくり言葉と向き合ったり、友だちの言葉を参考にしたりしながら、書くことの良さや言葉の持つ意味に気付くことで、伝えたいことを書いて表現する力を高めることをねらいにしました。そして、生徒がテーマに沿って見つけた言葉を集めて「俳句の木」を作り、この俳句の木から、言葉を選択したり、考えた言葉と組み合わせたりして俳句を作る学習をしました。

単元の序盤は、「言葉遊び」や「俳句クイズ」を行い、音節の区切りや言葉のリズム、オノマトペなどを捉えるようにしました。俳句クイズをとおして、様々な俳句や表現、言葉に触れながら、言葉への関心を高めていく姿が見られました。単元の中盤は、共通の体験を基にテーマを決め、連想した言葉などから「俳句の木」を作りました。そして、俳句の木に集まった言葉を使って、俳句を作りました。単元の終盤は、出来上がった俳句を鑑賞し、言葉を選び直したり、新たな言葉を加えたりしながら、俳句を短冊に書き、句会を開きました。

6名の生徒それぞれの感性が五・七・五の17音に表れ、言葉とじっくりと向き合い、味わう学習ができました。



「俳句の木」



俳句の木から言葉を選ぶ



完成した俳句を短冊に書く

### ②数学科「どんな形～同じを見つけよう～」(図形)

中学部1年生の生徒6名を対象に、実態に応じて3つのグループを作って学習をしました。

「マッチング」グループでは、形が同じであるか異なるかを、視覚的に捉えることをねらいにしました。「分類」グループは、分類した形の共通点を見出すことと、生徒が注目した形の特徴から、三角、四角という名称の理解につなげることをねらいとしました。「作図グループ」は、辺や頂点といった図形の構成要素に着目することをねらいにしました。そして、この3つのグループが学び合うために、「模様作り」をテーマとして設定し、学習を進めました。

単元の序盤は、「シルエットクイズ」を行い、形そのものに着目し、形を捉える活動をしました。○△□について、少しずつ名称と一致していく様子が見られました。単元の中盤は、下絵に合わせて同じ形を選んだり、作図した物を貼ったりして、「模様作り」を行い、それらをつなげて「タペストリー」を作りました。それぞれの図形の大きさや特徴に着目しながら模様を作る様子が見られました。単元の終盤はこれまでの学習を生かし、壁飾りを作りました。「さんかく」「しかく」と図形の名称を声に出しながら確かめ、様々な図形を並べて、壁飾りを作ることができました。



「シルエットクイズ」



「模様作り」



完成したタペストリー

### ③音楽科「聞いて感じて表そう」（身体表現）

中学部2年生の生徒6名を対象に、曲の強弱を捉えて、表現する力を高めることをねらいに、強弱がはっきりした曲や軽快なリズムの曲を聴きながら、身体や手具を使い、曲の雰囲気や強弱の変化に合わせて身体表現をする学習をしました。

単元の序盤は、曲に合わせて様々な動きを試したり、友だちの動きを真似たりして、表現の幅を広げる学習をしました。音の強弱に着目した音遊びや、変化をつけた動きをする活動をしました。友だちの動きを見ながら、走る動きに回る動きを組み合わせたり、跳ねたりする動きが見られました。中盤は、リトミックスカーフやリボンを使って、感じたことを表現する活動をしました。スカーフやリボンで動きが可視化されたことで、力強く振る、細かく動かす、投げるなど、音楽の変化に合わせて、動きを試したり工夫したりする姿が見られました。単元の終盤は、友だちと動きを合わせて表現することに取り組み、互いに動きを見合ったり、真似たりしながら、音楽に合わせて身体で表現する姿が見られました。



曲に合わせて跳ねる様子



リトミックスカーフを使った表現



動きを見合いながら表現する

### (3) 高等部

#### ①国語科「読んで見つけよう」（読むこと）

高等部2年生の生徒6名を対象に、言葉に着目して読み、内容を捉えたり、文を読んだ感想や考えを持ったりする力を高めることをねらいに学習しました。そして、物語を読んで、読み取ったことを基に、あらすじやお気に入りの場面、感想などを「本のポップ」としてまとめ、友だちに紹介する学習活動を行いました。

単元の序盤は、読み聞かせを聞いて、文中の言葉を手掛かりに挿絵を並び替える学習をしました。こうすることで、挿絵と叙述を結びつけながら、挿絵を並び替える姿が見られました。中盤は、個々に興味のある本を読み、登場人物や場面の様子などを読み取り、あらすじを紹介するポップを作る学習をしました。好きな場面や着目した文に印や付箋を付けながら読むことで、お気に入りの場面を中心として、ポップを作ることができました。単元の終盤は、完成したポップを基に友だちに本を紹介したり、校内の図書コーナーやメディアルームに掲示したりしました。

6名の生徒それぞれ読み取ったことを言葉や文で表し、ポップを完成させることができました。



挿絵の並び替えの様子



印をつけながら読む



完成したポップを基に紹介する

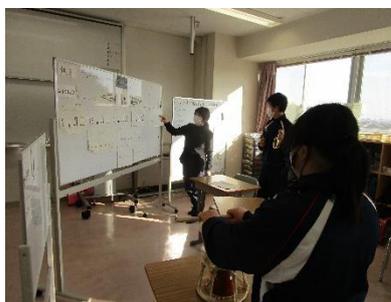
## ②音楽科「音を組み合わせせて鳴らそう」（創作）

高等部1～3年生の生徒8名を対象に、音楽を創作する楽しさを実感しながら、合奏する力を伸ばしたいと考えました。そこで、生徒に馴染みのあるおまつりをテーマに、リズムを作ったり、音の強弱をつける場面を友だちと決めたりして演奏する学習をしました。

単元の序盤は、自分の好きな楽器やリズムを見つけることに重点を置き、四分音符や八分音符などを組み合わせたリズムを手拍子や楽器で鳴らしてリズム打ちをしました。リズムの違いを捉えて、楽しみながらリズムを打ったり、即興的にリズムを作ったりする姿が見られました。単元の中盤は、おまつりの掛け声や楽器の音、動きからリズムを創作することを重視しました。そこでおまつりの映像を鑑賞しながら、リズムを創作しました。序盤と同じように、即興的にリズムを作ったり、友だちが作ったリズムを真似したりしながら、おまつりのテーマに合わせてリズムを創作する様子が見られました。単元の終盤は、グループでリズムを創作し、グループ間で、出来上がったリズムを紹介し合いながら御神輿の映像に合わせて創作しました。自然と身体を動かしたり、掛け声を発したりしながら、創作する様子が見られ、リズムの変化を感じながら、音を鳴らすことができました。



リズムを作る様子



創作したリズムで鳴らす



みんなで合奏する

## ③保健体育科「つなげてねらおうバスケットボール」（球技）

高等部1年生と3年生の生徒6名を対象に、味方や守備の立ち位置を意識して動いてパスをつなぎ、チーム全員で得点する楽しさや喜びを味わうことをねらいに、得点を競うゲームを段階的に取り入れたバスケットボールをしました。

単元の序盤は、基本的なボール操作を捉えることを重視し、ドリブルやパス、ボールの捕球や守備、シュートの動きなどを取り入れた「ボールサーキット」をしました。1周する間にドリブルやパス、シュートなどの一連の動きを行う場面を設定したことで、積極的に課題に取り組む姿やゴールを意識してボールを操作する姿が見られました。単元の中盤は、パスをつないで得点することを重視し、チームでパスをつなげながら得点をねらう簡易的なゲームを行いました。教師がディフェンスをし、どのようにボールをつなぐとよいか考えながらパスやシュートを行うようにしました。また、生徒の立ち位置をエリア指定して区切ることで、友だちの立ち位置やディフェンスとの距離を考え、パスの仕方を変えたり、あらかじめ動いてパスをもらったりする姿、得点して共に喜ぶ姿が見られました。単元の終盤は、多く得点を得るためにチームで作戦を考えながらゲームを行い、パスをつなぎ得点をするために工夫しながらゴールを目指す姿が多く見られました。



「ボールサーキット」



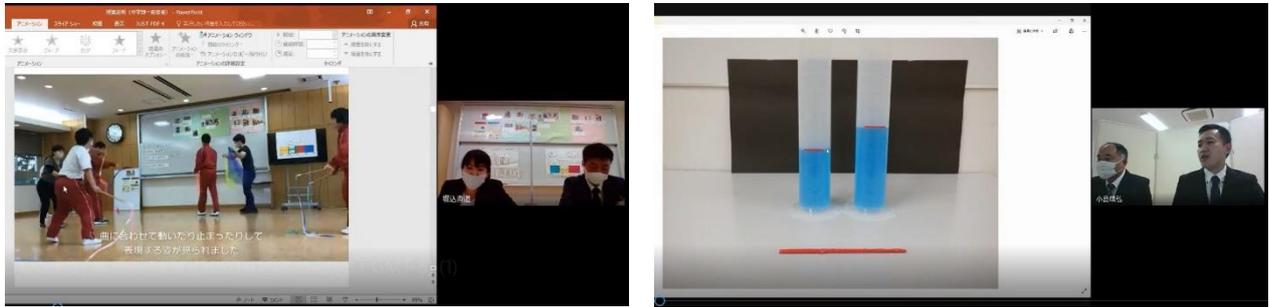
工夫してパスをし合う様子



得点を目指してプレーする

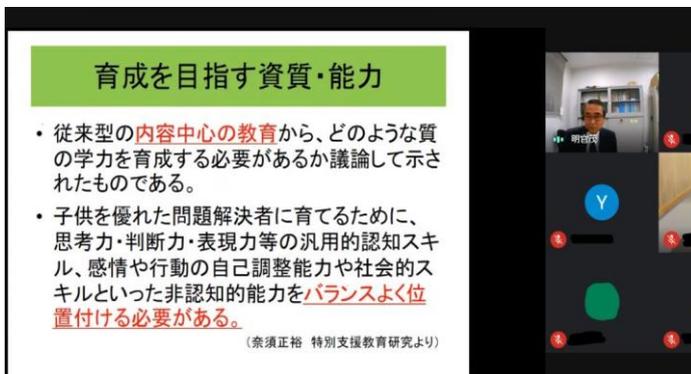
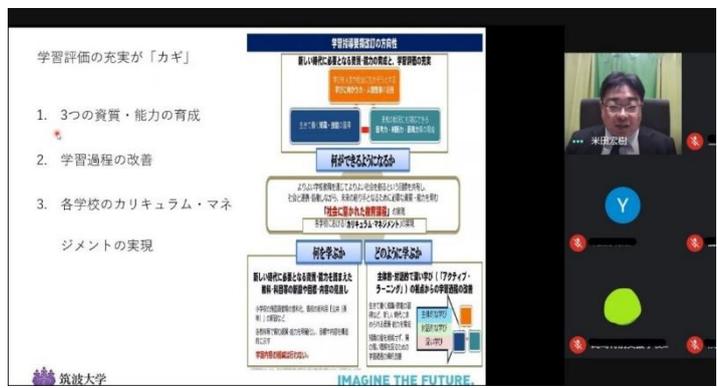
### 3 研究会や講演会の様子

GoogleMeet を使用した意見交換会や授業研究会では、画面共有機能等を活用し、授業の様子や使用した支援具、実際に生徒が作成した作品等を紹介しました。そして授業についての意見交換をしたり、参会された方の日頃の教科等の実践を共有したりしました。各学部それぞれ、30~50名ほどの先生方にご参加いただき、様々な意見や実践を共有することができました。



講演会では、140名ほどの先生方が参加されました。

米田先生からは、学習指導要領解説や文部科学省より出ている参考資料等を基に、「学習評価」の概要や考え方、設定の仕方等について、お話していただきました。また、そうした評価の視点から、学習過程をどのように工夫・設定したりし、改善したりしていくとよいのかも教えていただきました。



明官先生からは、「学習評価」の実際や現状と課題、そして授業実践を例に、どのように設定したり見取ったりするとよいのか、お話していただきました。またそこから、授業改善へとつなげることの大切さや、カリキュラム・マネジメントの視点から、学校全体で取り組んでいくべき考え方などをお話していただきました。

### 4 公開研究会を振り返って

オンラインでの開催に伴い、県内外から多くの先生方にご参加いただき、盛会に終えることができました。参加していただいた先生方からは、本校の実践に対して肯定的な意見に加え、本校がこれからまた改めて考えていかなければいけない課題等、多くの気づきをいただきました。今後、校内でしっかりと振り返りを行い、成果と課題を含めて、報告をしたいと思えます。